



尖足変形の治療／医療福祉相談室だより	1ページ
七夕、風船リリース、願いよとどけ!!／医療安全管理室からのお知らせ⑩／5病棟の生活のひとコマ③	2ページ
糖尿病ワンポイントアドバイス「夏の生活について」／「やまぼとギャラリー」情報コーナー!	3ページ
外来からのお知らせ／医事課よりお願い／外来診察のご案内	4ページ

尖足変形の治療

尖足変形とは、足の踵が上がり、背伸びをするような足の形になることを言います。筋肉の緊張が高くなる痙性と呼ばれる状態に伴うことが多く、大人であれば脳血管障害後の片麻痺、小児であれば脳性麻痺などに伴うことがあります。これ以外にも末梢神経や筋肉の病気などにもみられます。

筋緊張の強くなる痙性麻痺の足の変形は、踵の上がる尖足変形、足が内側に向く内反変形、足ゆびの屈曲変形などいろいろな変形を伴うことがあります。

治療は、ストレッチなどのリハビリや矯正ギプス、足関節の動きを調節する短下肢装具療法、筋力を一定期間弱めるBotox注射などがあり、変形の矯正や進行防止を試みますが、変形の高度な場合や、歩行安定、疼痛軽減を目標に手術を行う場合があります。

緊張の強い筋を、腱延長で緊張、痙縮を軽減させますが、筋緊張・短縮が軽度であれば、筋腱膜の切開や筋肉内での腱切開を中心に筋解離し、筋緊張・短縮が高度であれば、延長しすぎないように注意して、腱を直接Z延長します。

手術時期の決定は重要で、骨や関節に変化が生じる前であれば、筋腱の操作で矯正

できますが、変形が固まってからですと、骨への操作を加える矯正が必要になることもあります。

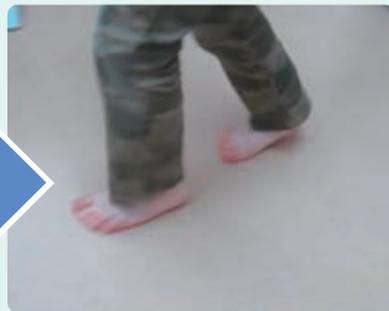
足の変形だけでなく、股関節や膝関節の変形を含めた下肢全体の機能評価も重要です。下肢全体のバランスを整えるために股関節や膝関節の変形に対する手術が同時に必要になることもあります。その場合は、多部位同時に手術を行い、下肢全体の動きを調整してリハビリをじっくり進めていきます。

術後は、リハビリや装具療法が重要で、新しい歩き方を定着させ、自主的なストレッチや装具療法を適宜行って維持、調整していく習慣が必要です。手術だけで改善するのではなく、その後の治療内容も重要です。



脳性麻痺 5歳時術前

5歳時両足、両膝筋解離手術施行(両腓腹筋腱膜解離、両後脛骨筋腱筋間解離、両膝内側ハムストリング延長)



9歳時(術後4年経過)

(整形外科 西山 正紀)

医療福祉相談室 だより

「子育て世帯臨時特例給付金」

「子育て世帯臨時特例給付金」は、平成26年4月より消費税が8%に引き上げられ、国は増税後の消費の落ち込みをカバーするために、子育て世帯に対して、臨時特例的な給付措置として、平成26年夏頃から給付されていました。

今年度も「子育て世帯臨時特例給付金」は支給されることが決定しています。



対象者は平成27年6月分の児童手当を受給される方で、今年度は児童1人に対して3千円(昨年度は1万円)が支給されます(所得制限等条件があります)。

申請先は、平成27年6月分の児童手当を受給する市町です。具体的な申請方法や申請時期等の詳細については、広報等で案内するといわれていますので、忘れずにご確認下さい。(ソーシャルワーカー 三好 亮司)